

# 2018年3月期 決算説明会資料

～中期経営計画 NC2020 初年度の進捗について～

稲畑産業株式会社

代表取締役社長 稲畑 勝太郎

2018年5月30日

1. 会社概要	… P 3
2. 中期経営計画 <i>NC2020</i> について	… P 5
3. <i>NC2020</i> 初年度の進捗について	… P 8
4. 参考資料	… P 23

## 稲畑産業とは、

### 1. 創業1890年

1890年 京都において、稲畑染料店として発足  
その後、ケミカル分野を中心に事業を拡大



稲畑染料店（京都・西陣）

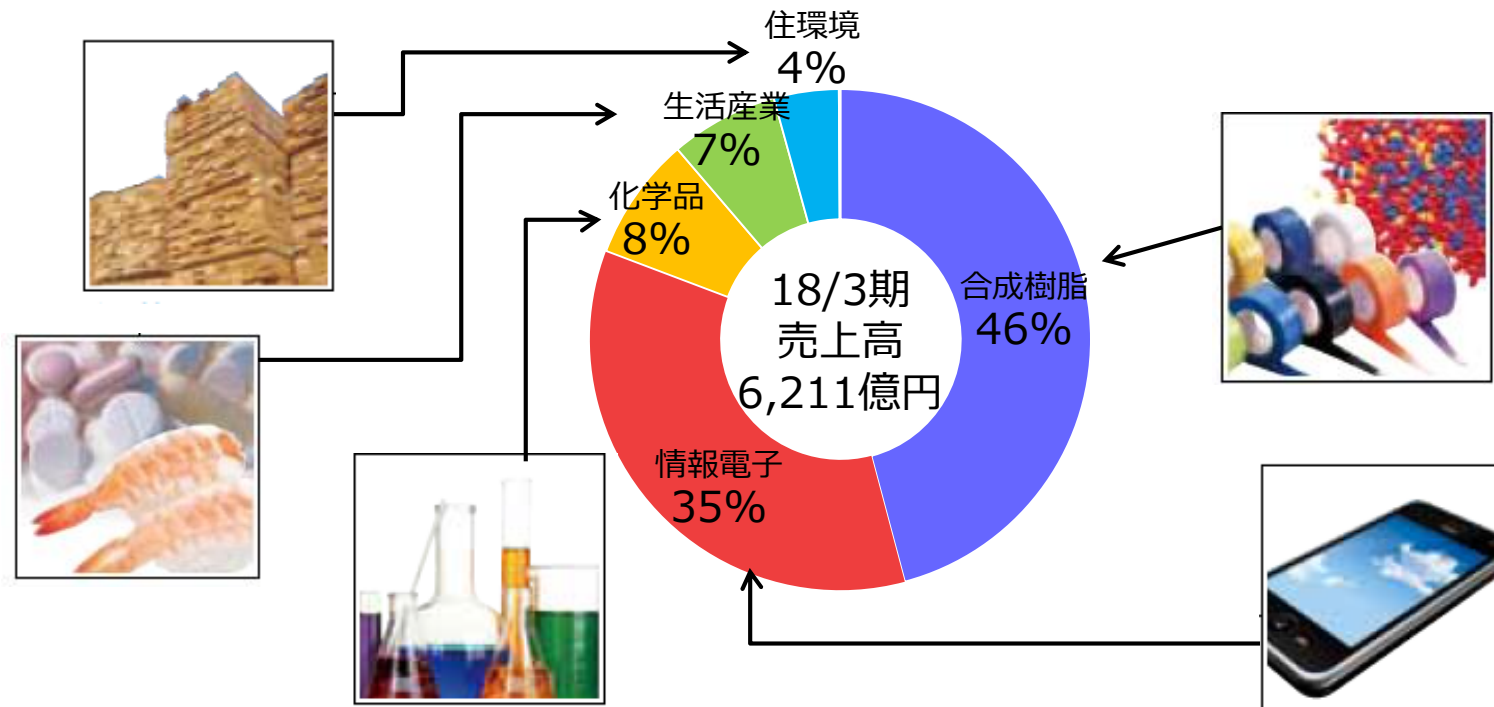
### 2. グローバルに複合展開する商社

世界18カ国に約60拠点を展開  
市場開発、製造加工、物流、ファイナンス等の機能  
商品やマーケットの専門知識・ノウハウに基づく企画・提案



## 3. 5つの事業分野

情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂、住環境の5つの分野で事業を展開



## ■ 中期経営計画

「*New Challenge 2020*」について  
(略称 *NC2020*)

## 2021年3月期を最終年度とする4年間の中期経営計画

定量目標	2021年3月期
売上高	7,300億円
営業利益	155億円
経常利益	160億円
親会社株主に帰属する 純利益	120億円
ネットD/Eレシオ	0.4以下
想定為替レート	USD1=110円

## 【重点施策】

### 1 海外事業の更なる拡大と深化

### 2 成長が見込める市場・未開拓分野への注力

- ・自動車、ライフインス・医療、環境・IT分野へ引き続き注力
- ・農業を含む食品分野への新たな展開

### 3 グローバルな経営情報インフラの高度化

- ・グループ全体最適の徹底
- ・海外事業のマネジメントの高度化と標準化

### 4 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

- ・商社ビジネス拡大を主たる目的としたマイリティ投資の実施
- ・リスク・金額を限定したマジョリティ投資の検討

### 5 保有資産の継続的な見直しと財務体質の強化

### 6 グローバル人財マネジメントの確立

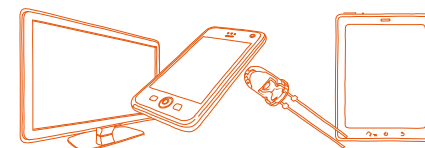
## ■ 中期経営計画

*NC2020* 初年度の進捗について



## ■ 液晶パネルのマーケット

- 液晶パネル（大型）価格は、2017年7月以降、下落基調
- 液晶パネル市場は、中国メーカーの生産能力増強により台湾・韓国から中国へ
- 液晶パネル市場全体では、供給過剰気味ではあるものの、面積ベースでの緩やかな成長が続く見通し
- 有機ELスマホの販売不振はあるが、高額機種での有機EL化のトレンドは変わらず但し、面積ベースでの市場シェアは限定的



	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	2019年3月期 見通し
TVセット	229百万台 (99%)	217百万台 (96%)	223百万台 (103%)
LCDパネル（大型）	261百万台 (97%)	264百万台 (101%)	267百万台 (101%)
スマートフォン	14.2億台 (105%)	14.6億台 (103%)	14.8億台 (101%)
タブレット	1.5億台 (81%)	1.32億台 (88%)	1.2億台 (91%)

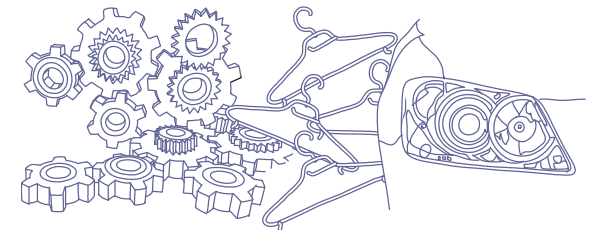
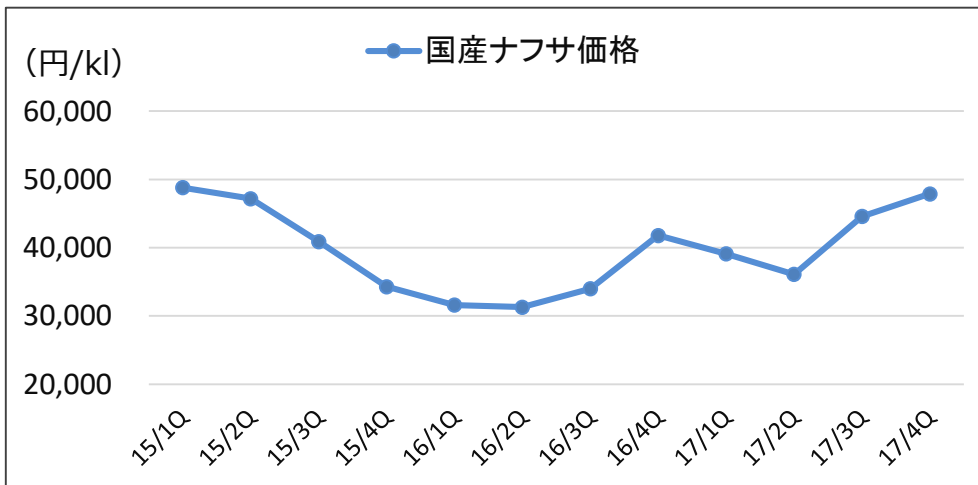
(※) 表は当社まとめ、( )内は前年比、または前年同期比

## ■ 合成樹脂のマーケット（国内）

- 国産ナフサ価格は、4Q時点で47,900円、1Qより8,800円の上昇
- 汎用樹脂を代表する塩ビは値上げが実施、価格は上昇傾向  
高機能樹脂も、ほぼ全樹脂が一年を通して値上げ基調が続いた

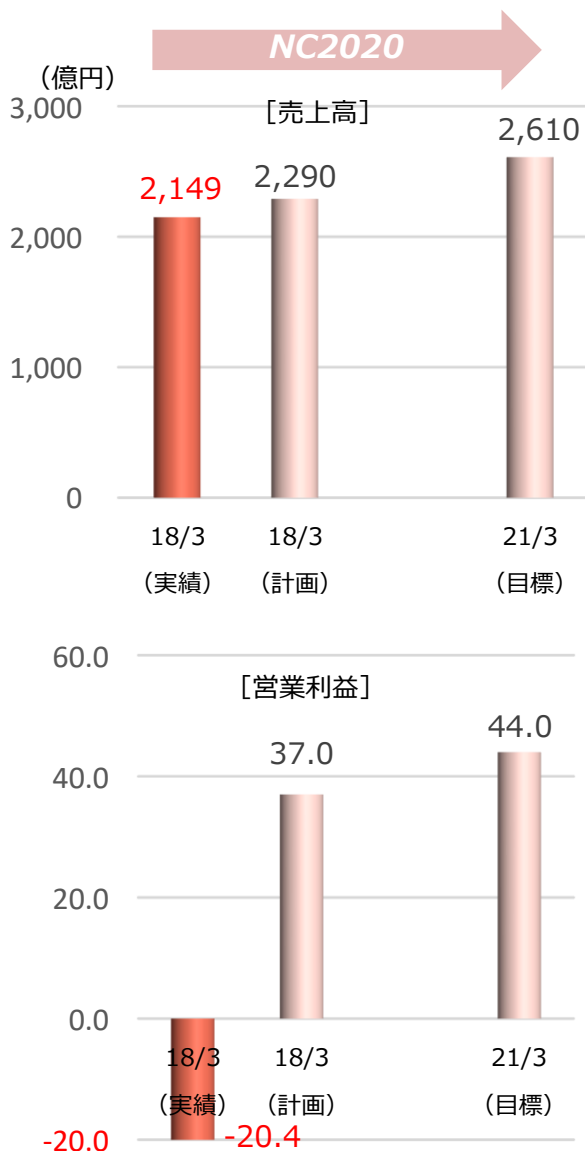
[自動車市場]

- 2017年の国内自動車生産は968.4万台と前年を5.2%上回る  
2018年も中国・米国市場は堅調を継続の見通し、インド市場の急拡大も追い風



## ■ 18/3期実績と計画との差異

	2018年3月期 実績 (A)	NC2020 2018年3月期 計画 (B)	差異	達成率 (A)/(B)%
売上高	6,211億円	6,300億円	▲88億円	98.6%
営業利益	59億円	125億円	▲65億円	47.7%
経常利益	63億円	130億円	▲66億円	49.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	67億円	100億円	▲32億円	67.4%
自己資本比率	40.0%	—	—	—
為替レート	USD1=110.85円	USD1=110.00円		

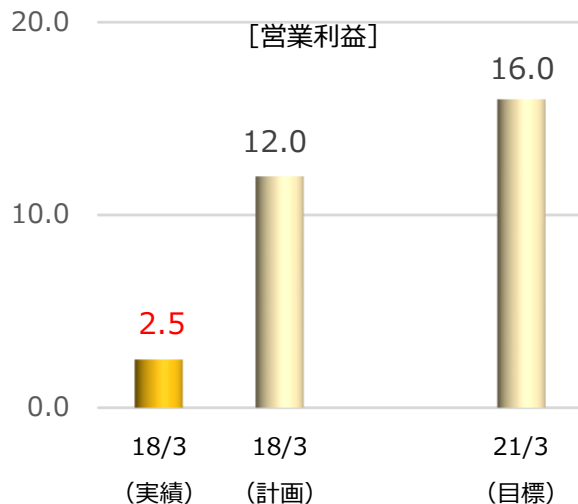
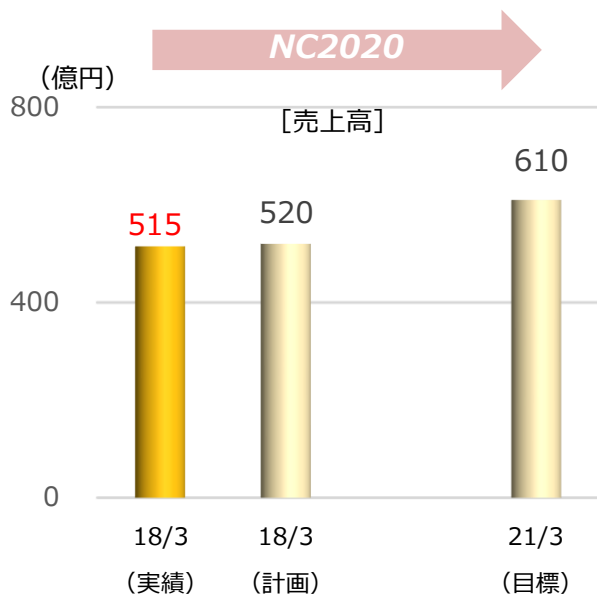


(億円)	18/3期実績 (A)	NC2020 18/3期計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	21/3期目標
売上高	2,149	2,290	93.9%	2,610
営業利益	▲20.4	37.0	—	44.0

- ✓ 欧州拠点で太陽電池関連取引中止により、売上高大幅減  
貸倒引当金の計上により営業損失
- ✓ 液晶関連は、中国・台湾で大型偏光板の価格競争激しく  
シェアダウンするも、国内の偏光板原料の好調により  
利益面では善戦
- ✓ 太陽電池に代わるLED関連やIT関連を育成

収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶関連部材</li> <li>複写機・プリンター関連部材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リチウムイオン電池関連</li> <li>「創エネ」に加え、「蓄・放・省エネ」ビジネスの展開</li> </ul>

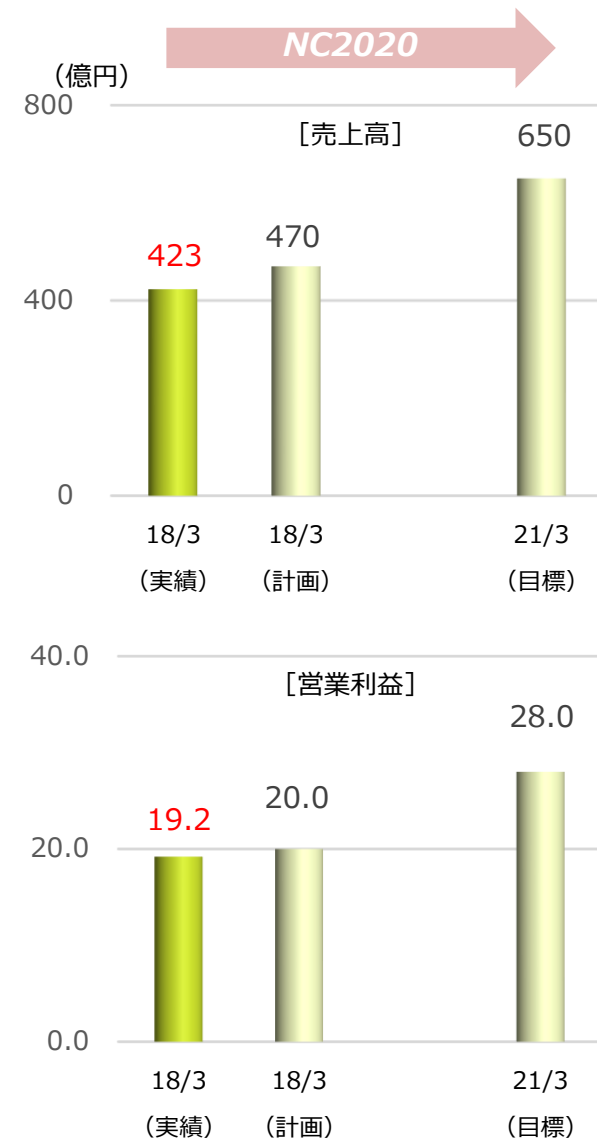
# NC2020 各事業の進捗状況 ② 化学品事業



(億円)	18/3期 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	21/3期 目標
売上高	515	520	99.2%	610
営業利益	2.5	12.0	21.6%	16.0

- ✓ 売上はビジネスの伸長で、ほぼ計画を達成したものの、貸倒引当金の計上により、営業利益は大きく未達
- ✓ 塗料・インキ分野向け原料・中間体の販売は、海外向けが伸長
- ✓ 放熱材の原料販売は順調に拡大、放熱材の製品販売は中国・北米向けに注力

収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品原材料関連</li> <li>コーティング（塗料・インキ）関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放熱部材関連（ポリマテック社）</li> <li>グラスウール入り樹脂等 新規商材</li> </ul>

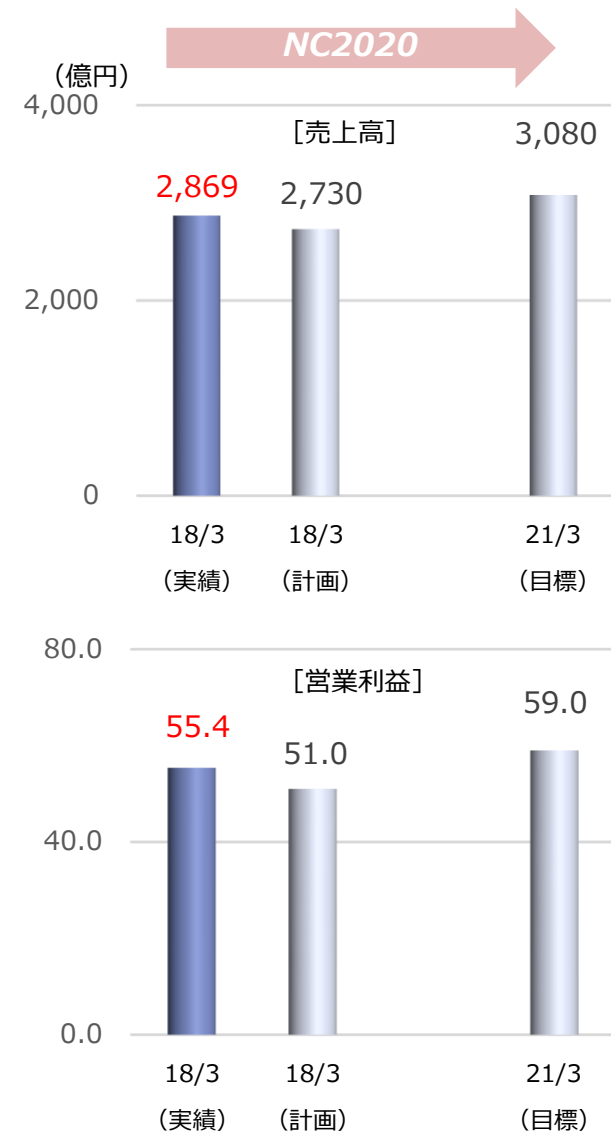


(億円)	18/3期実績 (A)	NC2020 18/3期計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	21/3期目標
売上高	423	470	90.2%	650
営業利益	19.2	20.0	96.0%	28.0

- ✓ 医薬品原料やホームプロダクツ関連は順調に推移
- ✓ 米国でサーモン等水産品の販売が堅調
- ✓ 先端医療分野と北海道での農業分野（栽培事業※）は、進捗遅れる
- ✓ 食品は国内の子会社を含む販売体制を再編、拡販へ

（※）ブルーベリー、カボチャ、ニンニクなど

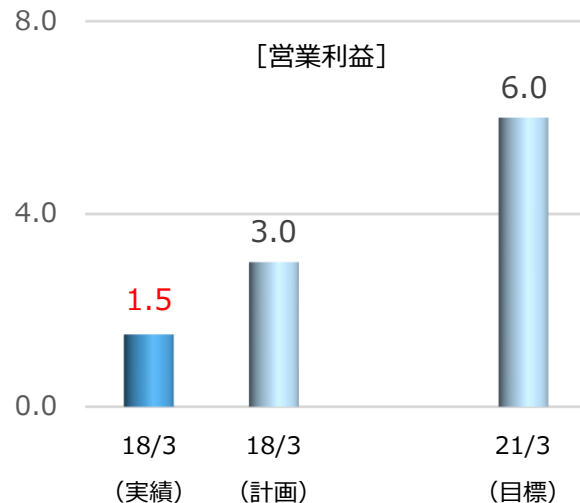
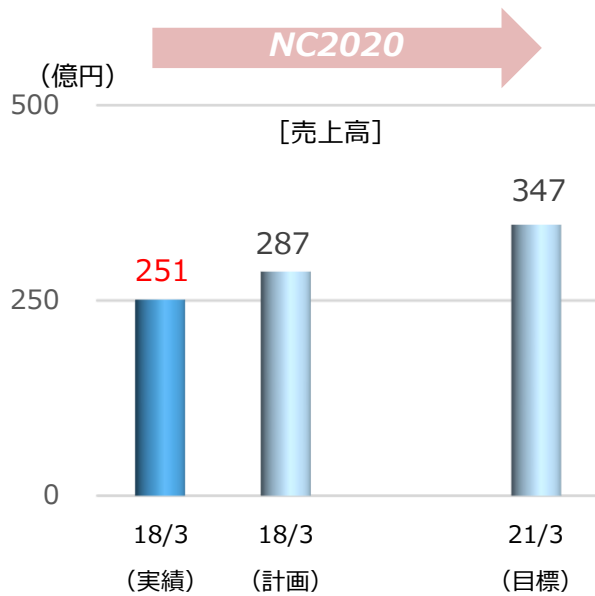
収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 医薬原料（新薬）</li> <li>• ホームプロダクツ原料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 再生医療などの先端医療</li> <li>• ブルーベリーを中心とした農産品</li> <li>• 新たなビジネスモデルの構築（農業、食品加工業）</li> </ul>



(億円)	18/3期実績 (A)	NC2020 18/3期計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	21/3期目標
売上高	2,869	2,730	105.1%	3,080
営業利益	55.4	51.0	108.6%	59.0

- ✓ 自動車関連をはじめとして全般的に樹脂の販売が好調、売上・営業利益共に計画を上回る
- ✓ メキシココンパウンド拠点が利益面で苦戦するも、試作は進んでおり19/3期から損益改善へ
- ✓ 国内外で連携して、引き続きグローバルユーザー向け販売を中心に拡大

収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車、O A、家電分野向け樹脂</li> <li>製造・加工を含むフィルム関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルユーザーへの販売</li> <li>海外事業の更なる拡大 (地域・分野)</li> </ul>



(億円)	18/3期 実績 (A)	NC2020 18/3期 計画 (B)	進捗率 (A)/(B)%	21/3期 目標
売上高	251	287	87.6%	347
営業利益	1.5	3.0	52.3%	6.0

- ✓ 海外関連や住宅建材関連が伸びず、売上は計画未達
- ✓ 利益面では、経費増もあり計画を大きく下回る
- ✓ 廃材利用のパーティクルボードの販売は堅調
- ✓ 建材分野（新規用途）と非住宅分野に注力

収益ドライバー	成長ドライバー
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカー向け資材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海外市場（フローリング等）</li> <li>• 非住宅分野（ウレタン原料、チップ等）</li> </ul>



## 商社ビジネス拡大に向けた投資の積極化

	18/3期実績
成長投資	38.6億円
定常投資	15.9億円
合計	54.5億円

## ■ 18/3期 主な成長投資

- [化学] 出資 18.8億円 (自動車・放熱関連)
- [情電] 出資 4.9億円 (環境・エネルギー関連2件)
- [合成] 設備投資 5.2億円 (インフレ・コンパウンド関連計)

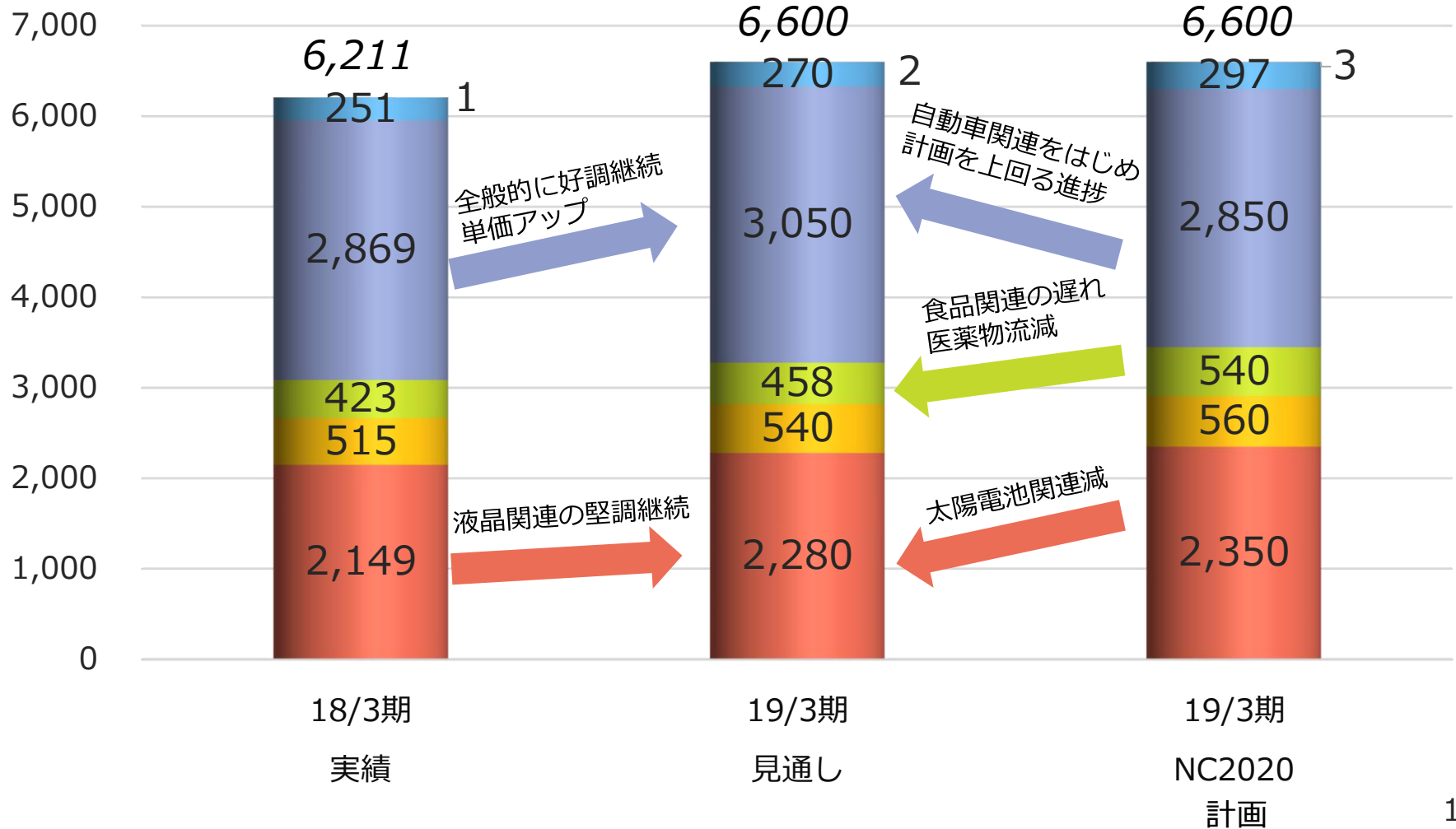
## ■ 19/3期見通しと計画との差異

	2018年3月期 実績	2019年3月期 見通し (A)	NC2020 2019年3月期 計画 (B)	差異 (A)-(B)
売上高	6,211億円	6,600億円	6,600億円	0
営業利益	59億円	135億円	135億円	0
経常利益	63億円	140億円	140億円	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	67億円	105億円	105億円	0
自己資本比率	40.0%	—	—	—
為替レート	USD1=110.85円	USD1=110.00円	USD1=110.00円	

## 【売上高】

(億円)

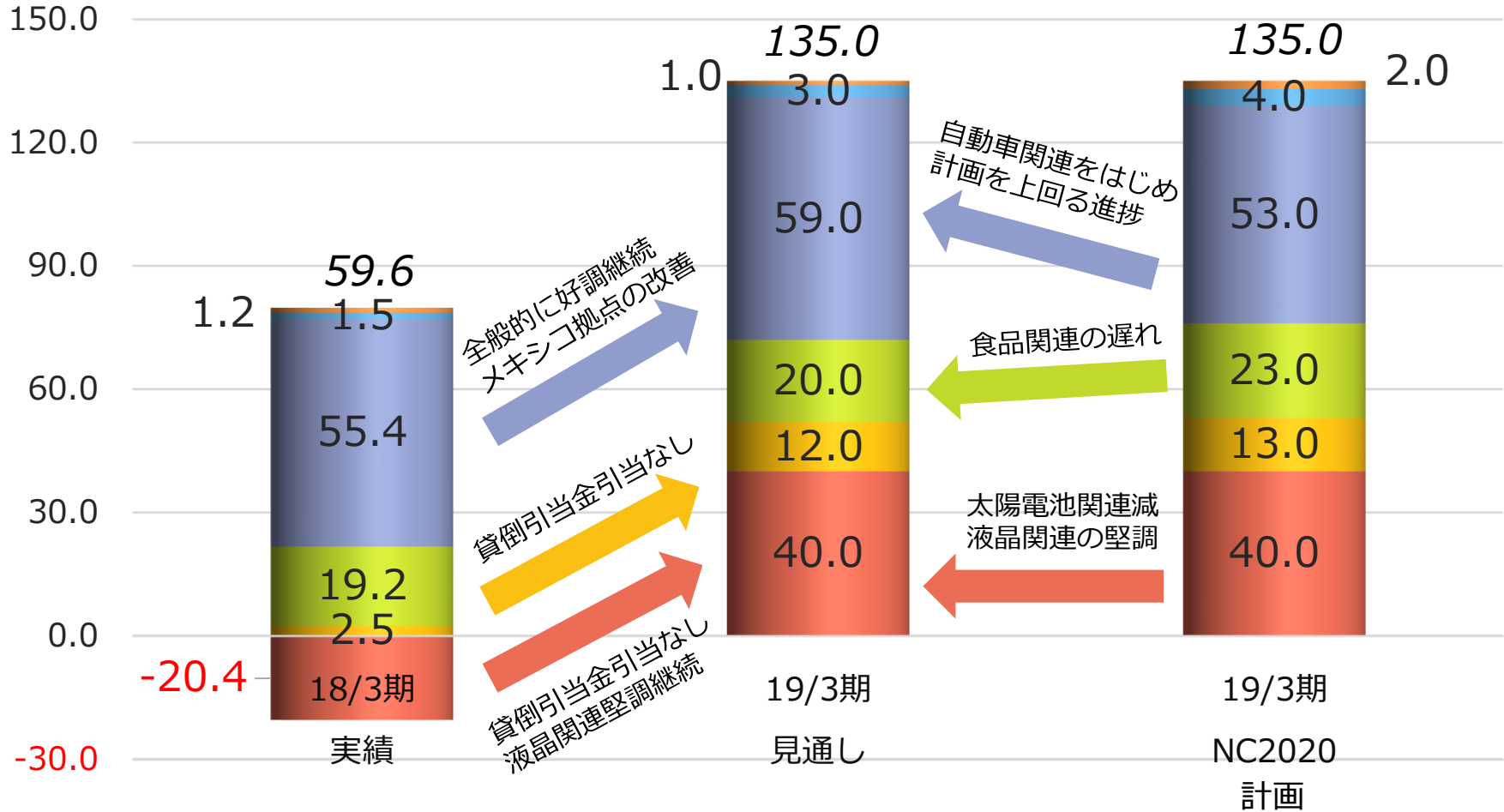
■ 情報電子 ■ 化学品 ■ 生活産業 ■ 合成樹脂 ■ 住環境 ■ その他



## 【営業利益】

(億円)

■ 情報電子 ■ 化学品 ■ 生活産業 ■ 合成樹脂 ■ 住環境 ■ その他



## 利益還元の方針

総還元性向 30～35%目安

1株当たり配当金 :

■ 2018年3月期実績

年間配当金 40円 (中間20円 期末20円)

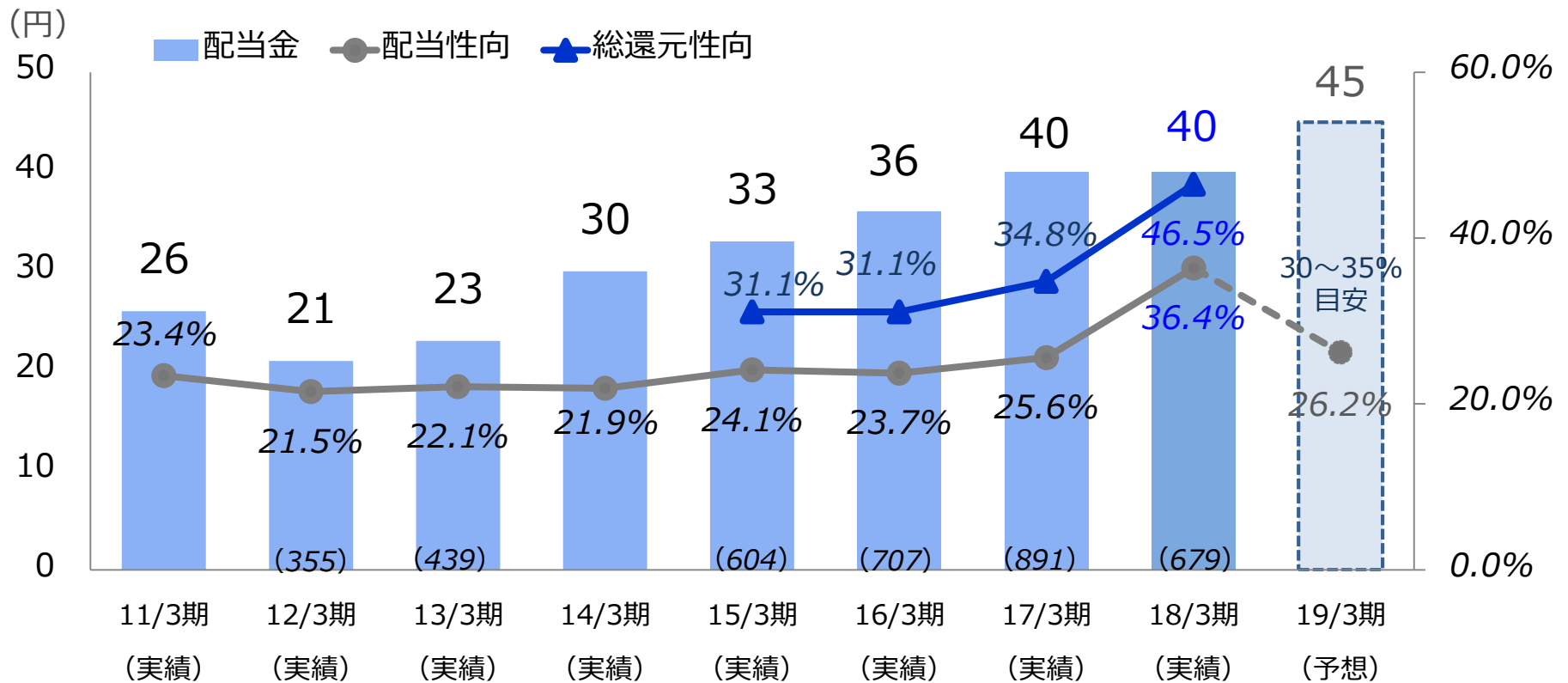
自己株式取得額 679百万円 (400,000株)

総還元性向 46.5% (配当性向 36.4%)

■ 2019年3月期 (予想)

年間配当金 45円 (中間20円 期末25円)

## 1株当たりの年間配当金と株主還元指標の推移



※ 棒グラフ下部のカッコ ( ) 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

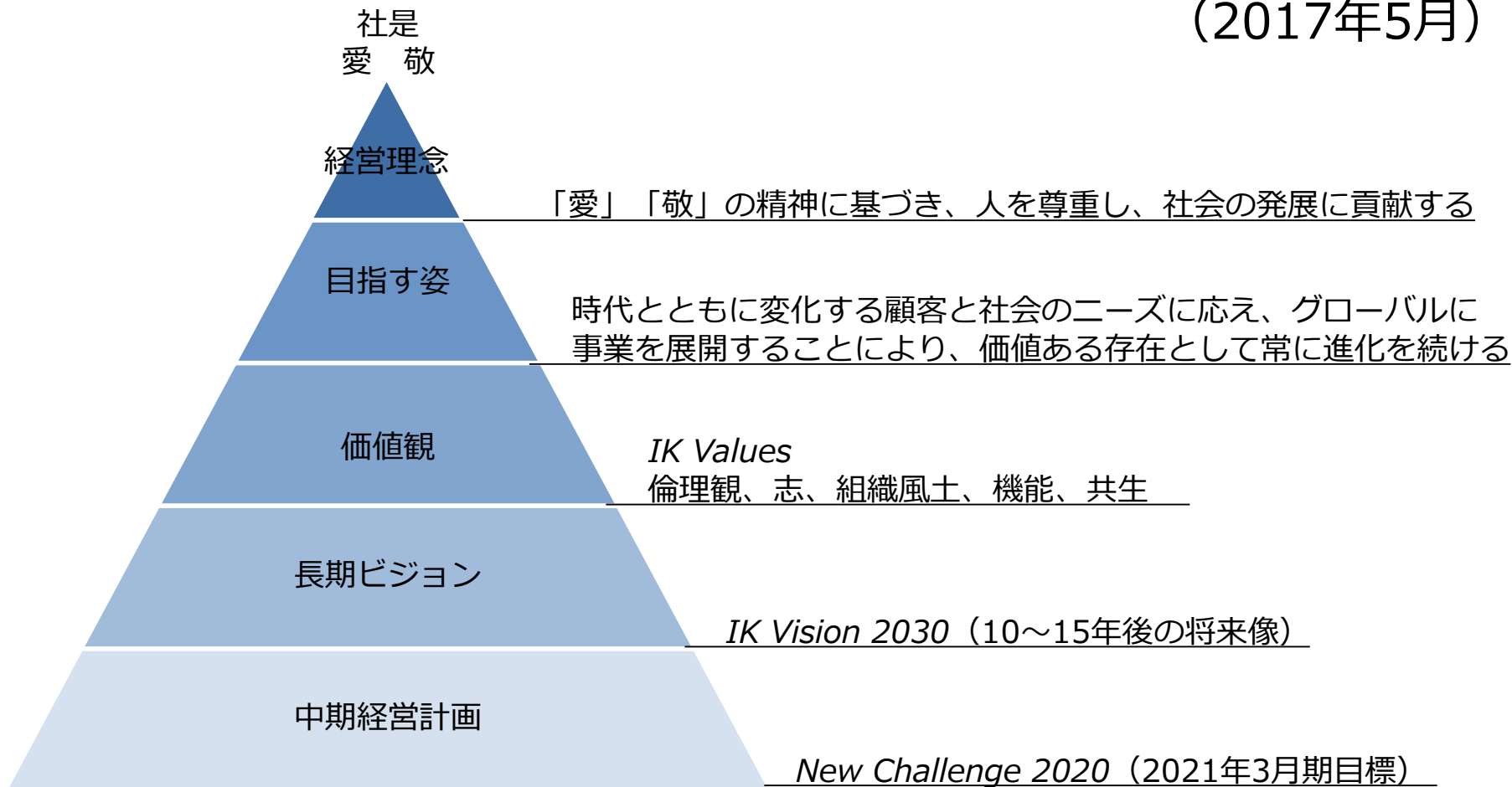
※ 11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

## ■ 参考資料

1.	中期経営計画「NC2020」の位置づけ	… P 25
2.	長期ビジョン「IK Vision 2030」	… P 26
3.	NC2020 事業環境・事業戦略	… P 27
4.	NC2020 セグメント別売上高・営業利益推移	… P 29
5.	売上高・営業利益推移	… P 31
6.	海外の売上高・営業利益推移	… P 32
7.	成長が見込める市場・未開拓分野への注力	… P 33
8.	海外事業の更なる拡大と進化	… P 37
9.	ガバナンスの強化	… P 39
10.	グローバル人財マネジメントの確立	… P 40
11.	1株当たりの当期純利益	… P 41
12.	樹脂コンパウンドの年間生産能力	… P 42
13.	18年3月期2Qドイツ子会社関連のご説明	… P 43
14.	会社概要	… P 46



## ◆中期経営計画策定にあたり、当社が目指す長期ビジョンを策定 (2017年5月)



◆今後10～15年後（2025～2030年頃）を念頭に、将来像を想定

機能 : 商社機能を基本としつつも、製造・物流・ファイナ等の複合的な機能の一層の高度化を図る

規模感 : 連結売上高 1兆円以上を早期に実現

海外比率 : 70%以上

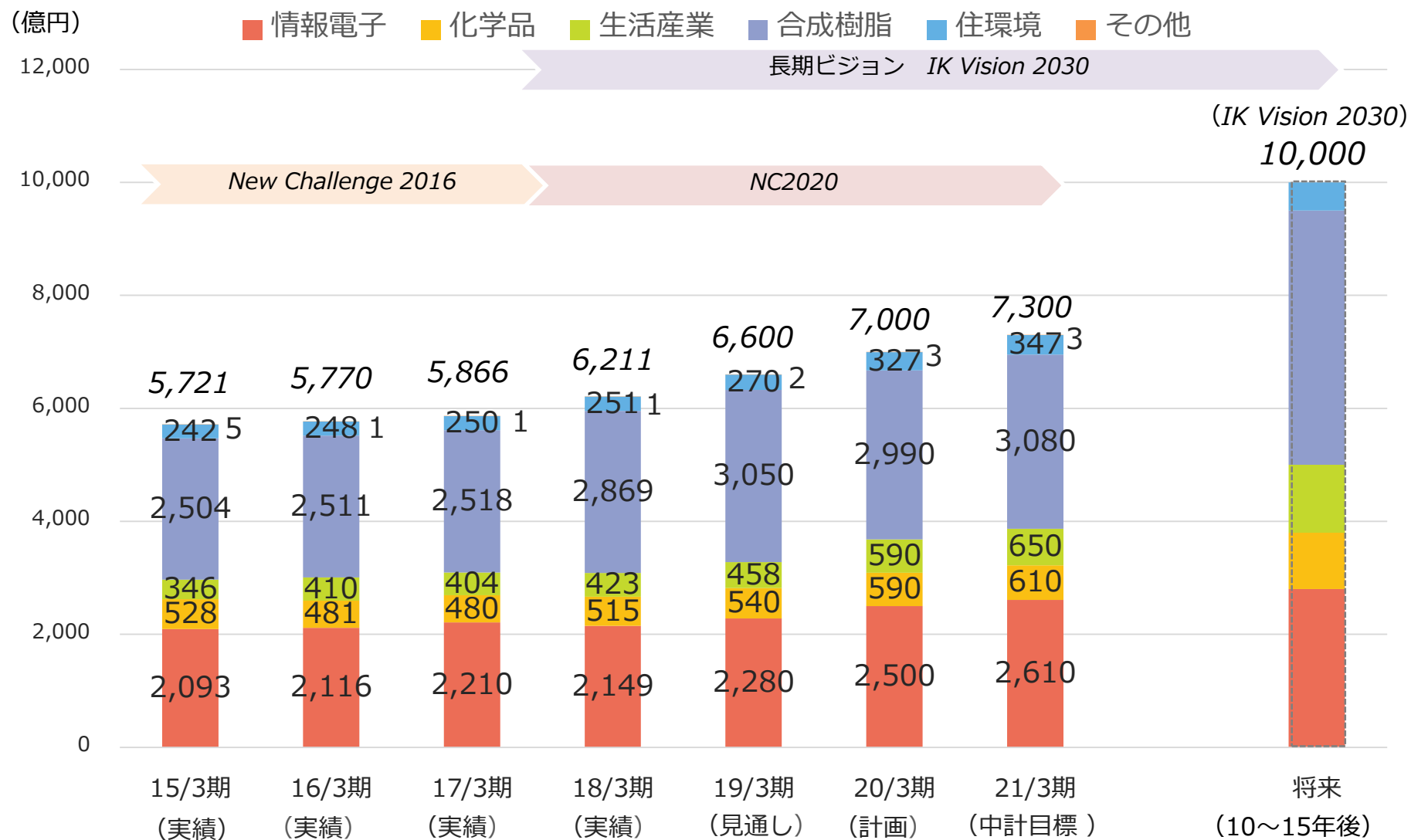
ポートフォリオ : 情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を1/3以上に

[ 2017年5月策定 ]

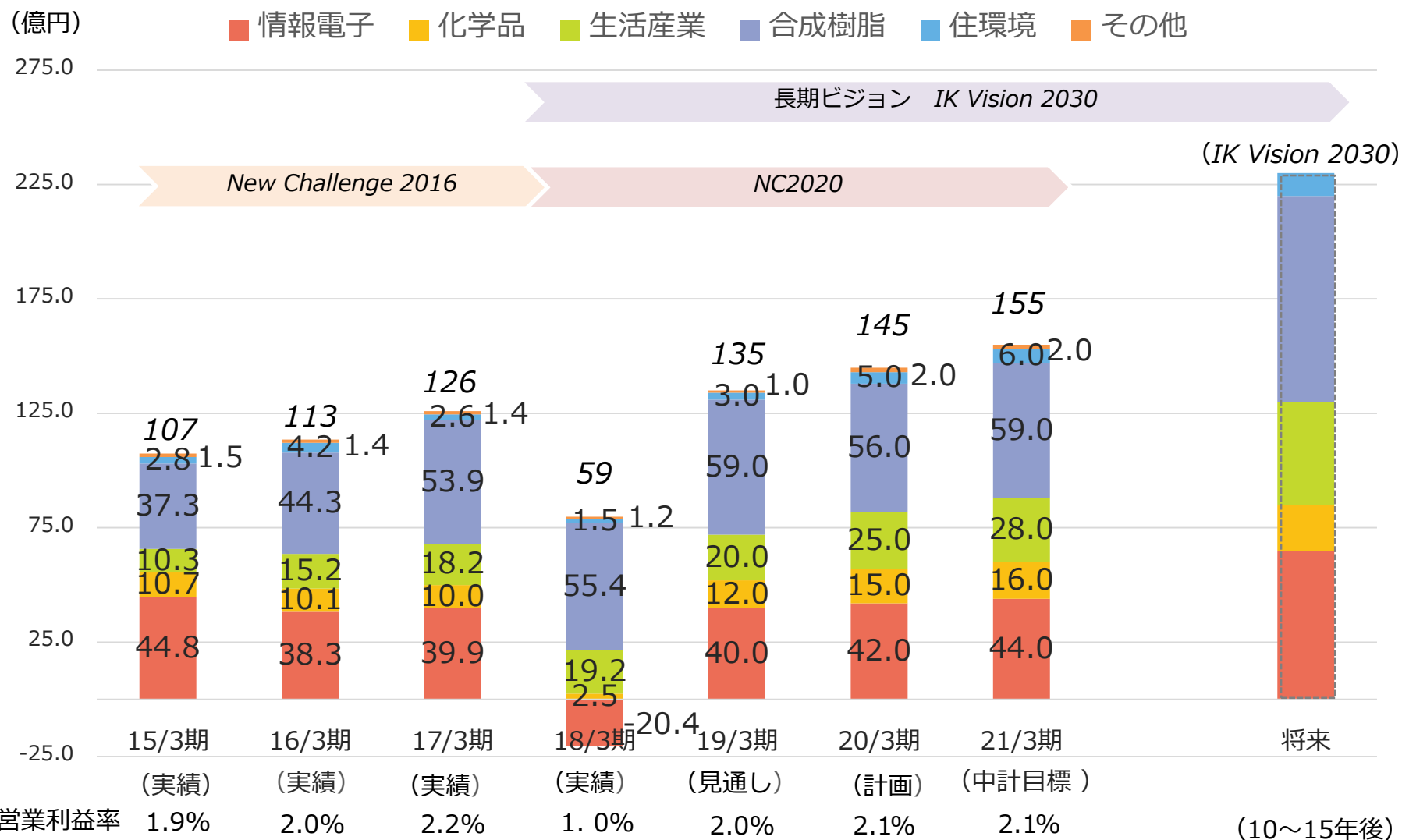
事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶関連は中期的に微増、パネル生産は中国へのシフトが続く</li> <li>複写機・プリンターは成熟産業だが、産業用に成長の余地あり</li> <li>太陽光発電は、日本では期待薄だが、海外で成長が続く</li> </ul>
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の既存マーケットは変化が少なく、当社が扱える商材の市場も限定的</li> <li>外資系化学メーカーが、日本市場において営業を商社に任せる動きあり</li> </ul>
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬は、新薬市場と再生医療が緩やかに成長</li> <li>ホームプロダクツは、国内市場が飽和状況、新興国市場は拡大</li> <li>食品は、先進国では健康、安全志向へ、新興国では食の消費増進む</li> </ul>
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客・サプライヤー共にグローバル化の動きが加速</li> <li>グローバル対応が可能な商社への集約化選別が進む</li> </ul>
住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設住宅着工件数は減少が続く見通し</li> <li>リフォーム市場は拡大</li> <li>大手ハウスメーカー、住宅設備機器メーカーの海外進出加速</li> </ul>

事業	事業環境
情報電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶ビジネスは、中期計画の期間中、引き続き主力事業として収益の維持を図る</li> <li>長期的に、現主力事業の成長鈍化も想定して、新規ビジネスの拡大に注力</li> </ul>
化学品	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品業界の更なる深堀り</li> <li>自動車業界をメインとしたコーティングビジネスの拡大</li> <li>外資系化学メーカーとの取り組みを強化</li> </ul>
生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>新薬・原料ビジネスは、有望テーマを拡充。先端医療分野に最注力</li> <li>ホームプロダクツ・食品は、海外を含めた市場拡大による売上拡大を図る</li> <li>食品では、生産者ポジションと加工業への進出を進める</li> </ul>
合成樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンパウンド事業を武器に樹脂の販売を拡大</li> <li>自動車分野と特に北米市場に注力</li> </ul>
住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外市場への拡販</li> <li>非住宅分野へ注力</li> </ul>

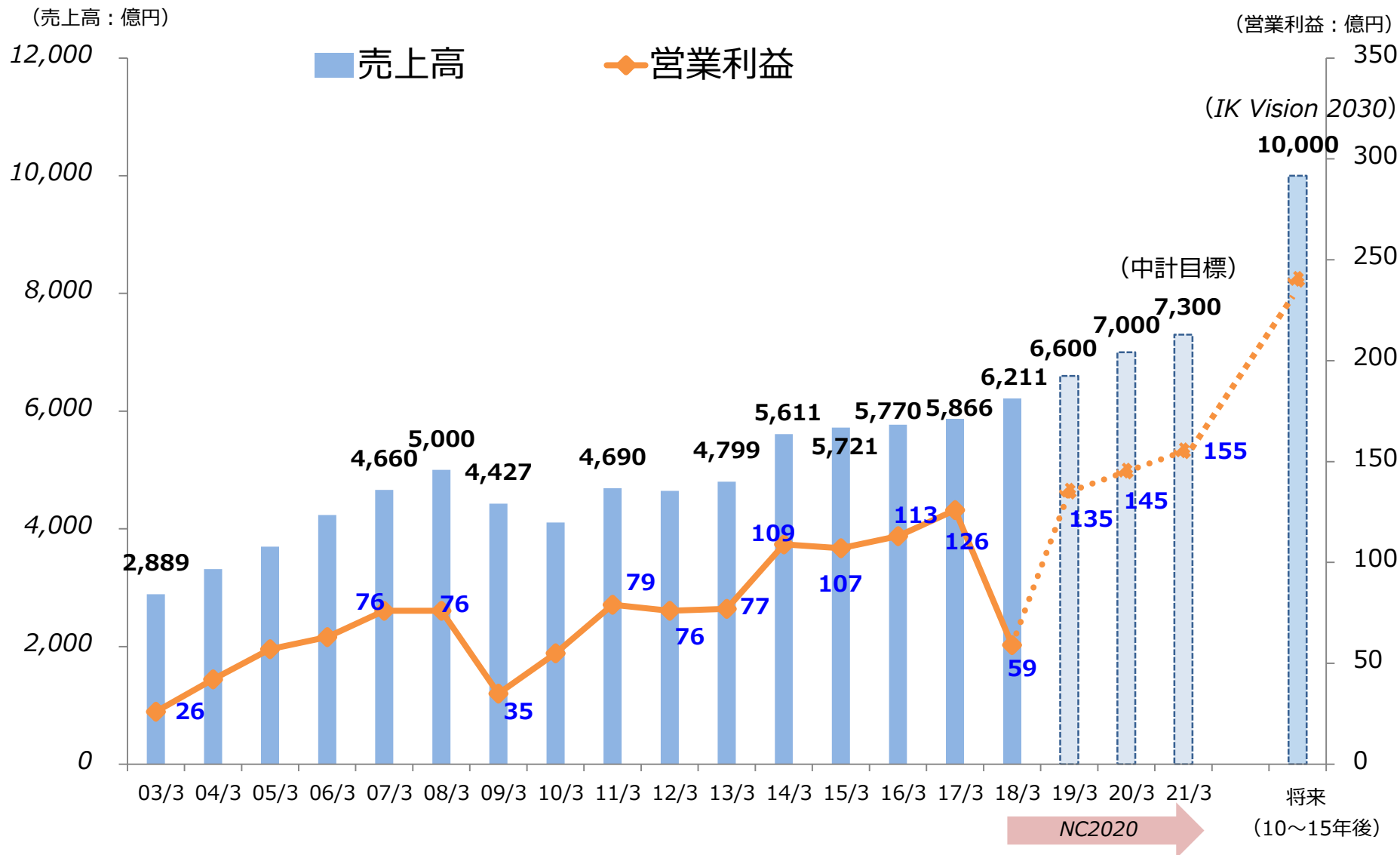
# 【参考】NC2020 セグメント別 売上高推移



# 【参考】NC2020 セグメント別 営業利益推移



# 【参考】売上高・営業利益推移

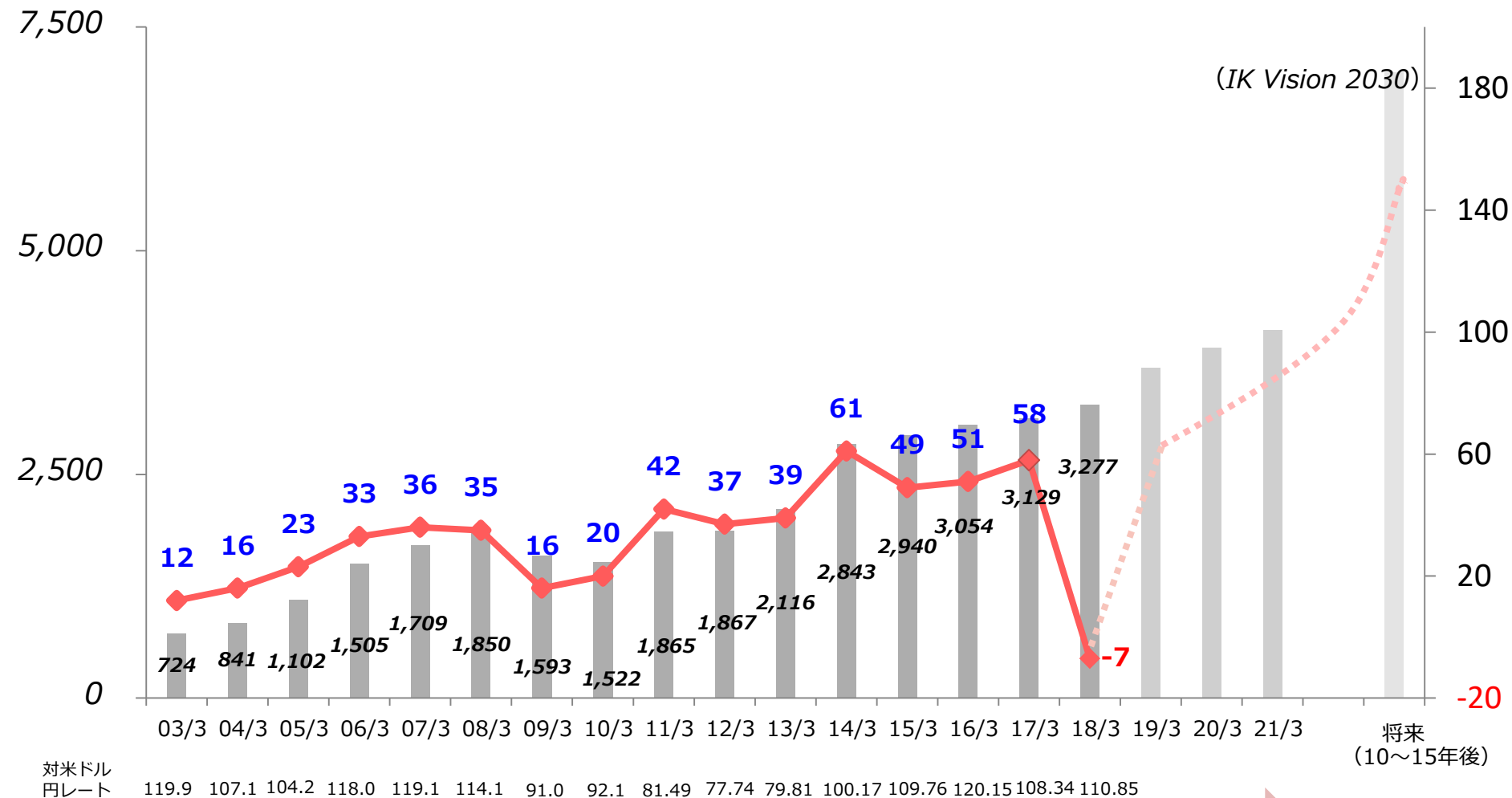


# 【参考】海外の売上高・営業利益推移

(売上高：億円)

■売上高 ◆営業利益

(営業利益：億円)



NC2020

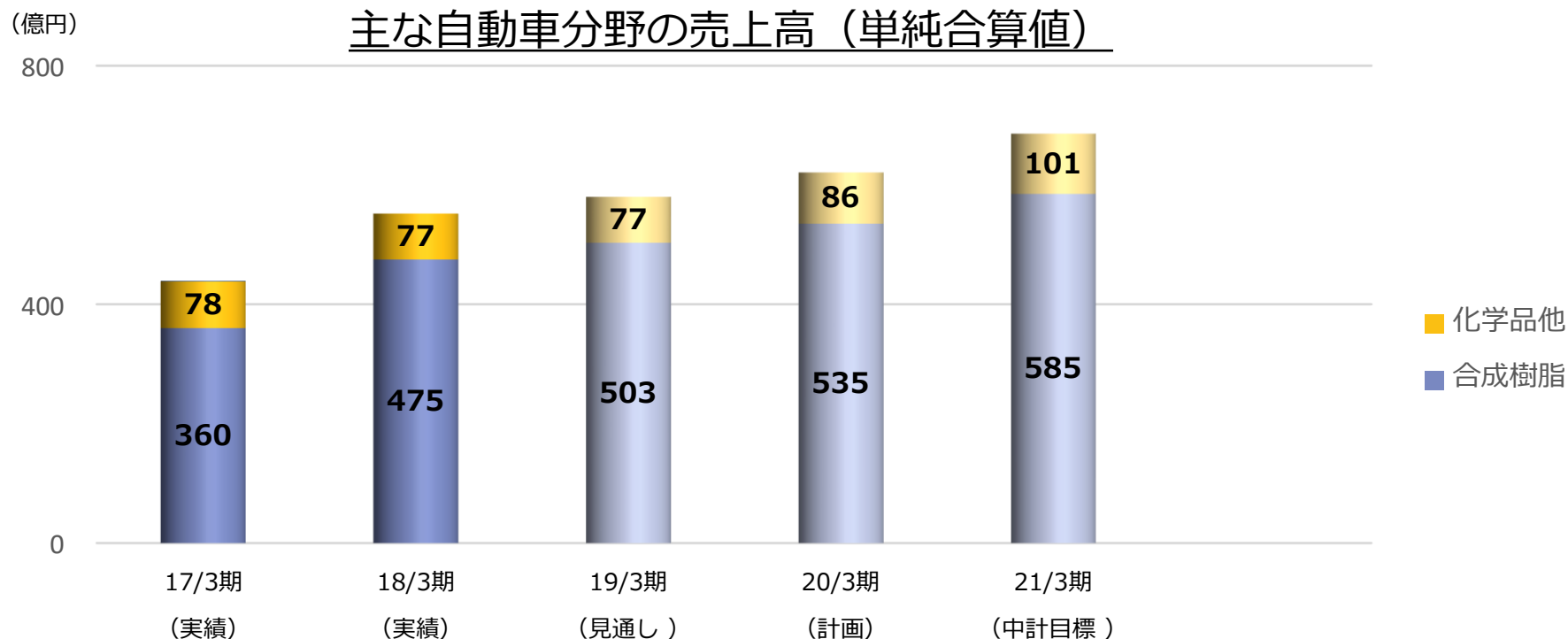


## 自動車分野への主な取り組み

[合成] グローバルユーザーへの樹脂の拡販、北米市場に注力  
東南アジアは回復傾向、19/3期も堅調を見込む

[化学] 部品・塗料原料の拡販、放熱材原料・製品の販売に注力

[情電] 加飾フィルム関連の販売

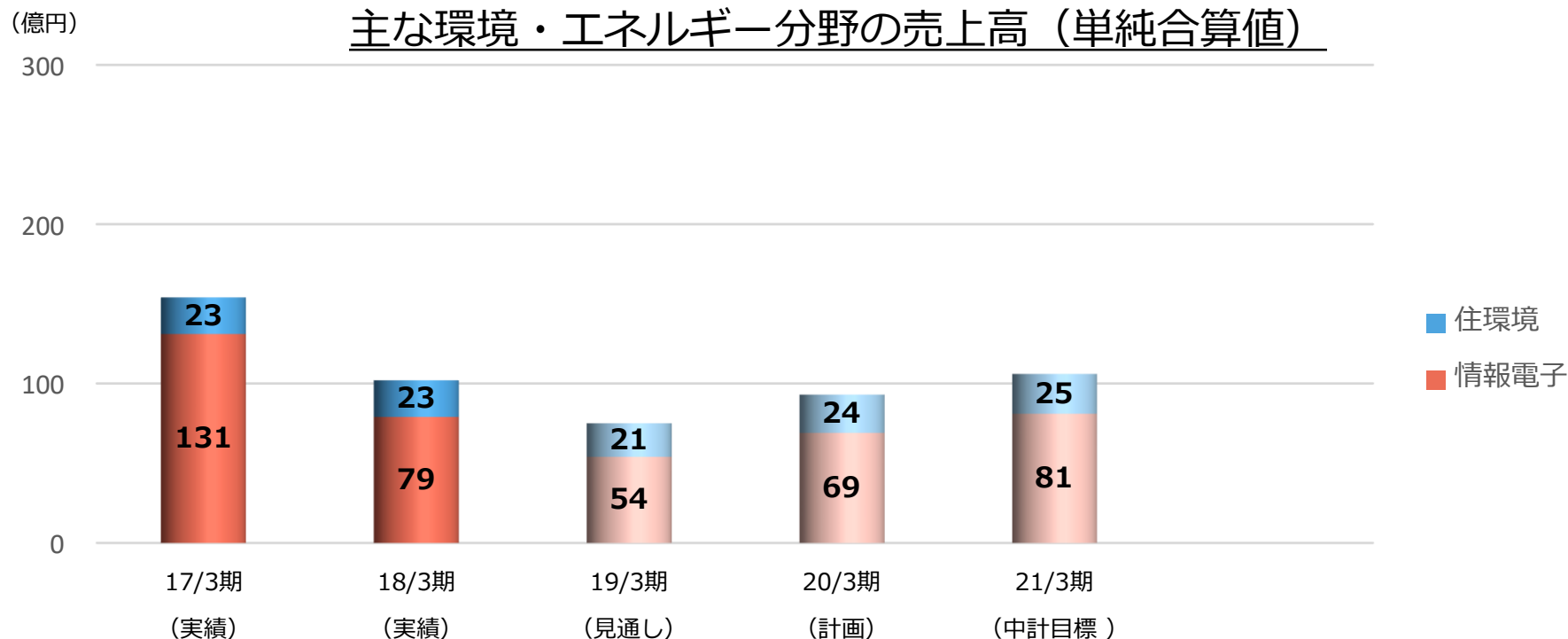


(※) 19/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

## 環境・エネルギー分野への主な取り組み

- [情電] 太陽電池はドイツ子会社での取引中止により大幅減  
リチウムイオン電池は中国/韓国の電池メーカーへの材料販売に注力
- [住環] 木質チップとパーティクルボードの販売に注力

主な環境・エネルギー分野の売上高（単純合算値）

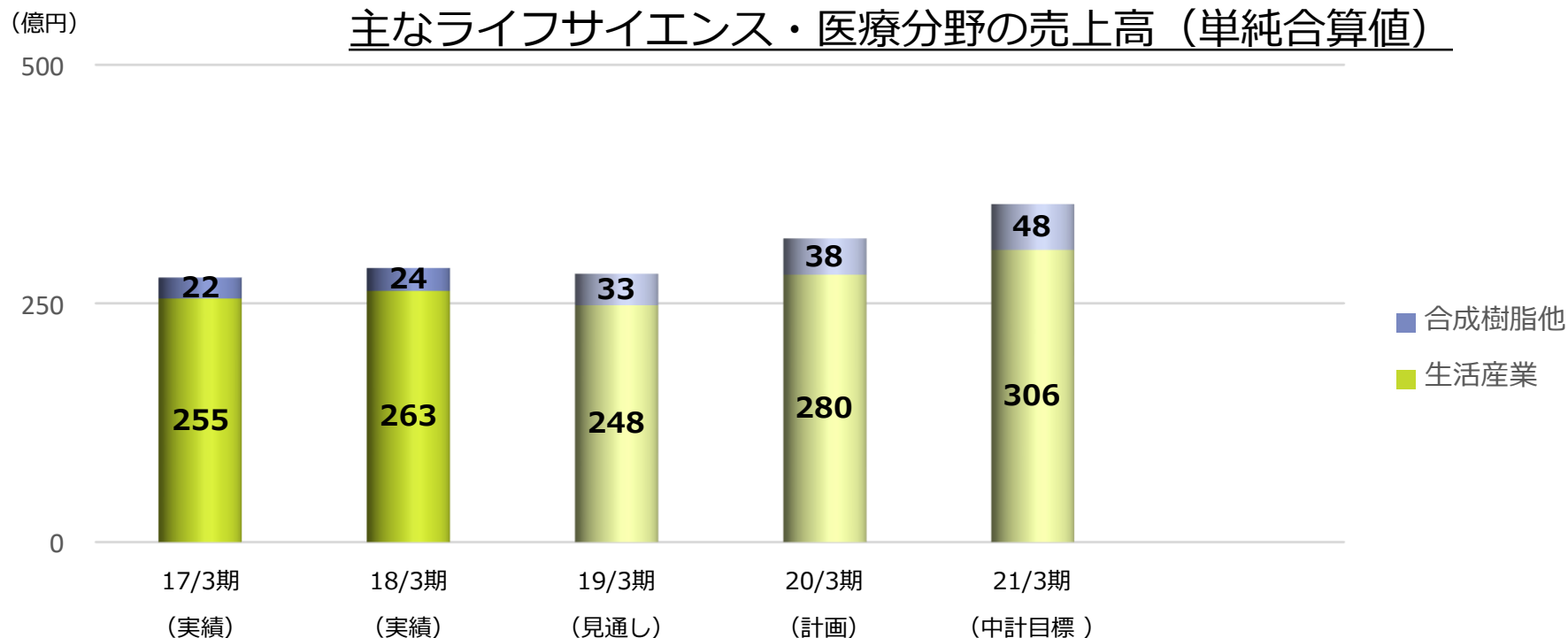


(※) 19/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

## ライフサイエンス・医療分野への主な取り組み

[生活] 医薬品原料、化粧品原料等に注力、先端医療分野は再生医療機器などの販売を進める

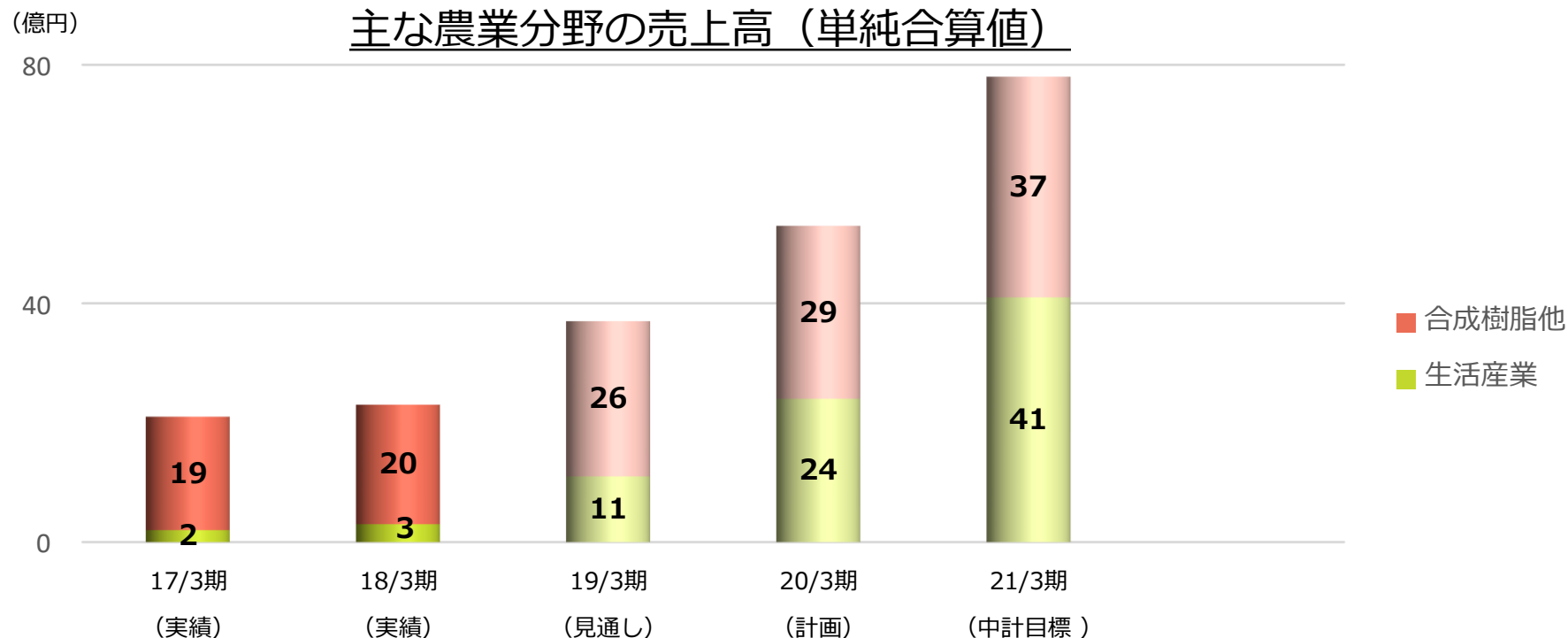
[合成] 医療機器メーカー（シリンジ用など）への樹脂の販売



(※) 19/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

## 農業分野への主な取り組み

- [生活] 野菜、果実などの農産物の栽培・販売、加工拠点の構築と加工品の販売に注力
- [合成] 農業用フィルム（防曇など）の販売
- [情電] 飼料、農業資材関連の販売



(※) 19/3期以降の数値は直近の状況により当初計画を見直しております。

(※) 冷凍ブルーベリーや冷凍野菜のビジネスは上記に含まず

## 【参考】 海外事業の更なる拡大と深化

コンパウンド製造拠点の進捗状況 [メキシコ・自動車向け]



2018年3月期は、経費先行により利益面で苦戦  
新規案件の試作は引き続き活発、大型案件の立ち上がりもあり損益改善へ

2018年3月期	販売実績	6,100トン
2019年3月期	販売見通し	8,400トン



会社名 : IK Plastic Compound Mexico, S.A. de C.V.  
生産能力 : 15,000トン/年  
所在地 : メキシコ中央部グアナフアト州シラオ  
2013年11月稼働、2014年9月より量産開始

## 【参考】海外事業の更なる拡大と深化

### コンパウンド製造拠点の進捗状況 [フィリピン・OA向け]



主要OA顧客向けが伸びず苦戦が続いたが、足元の販売は回復傾向  
OA以外の新規顧客向けの販売も徐々にスタート

2018年3月期	販売実績	7,200トン
2019年3月期	販売見通し	8,100トン



会社名 : IK PLASTIC COMPOUND PHILS. INC.  
生産能力 : 10,800トン/年  
所在地 : フィリピン ラグナ州  
2014年7月商業生産開始

## 取締役会評価について

取締役会の実効性と透明性を高め、企業価値を向上させることを目的

### **2016年3月期、2017年3月期**

全取締役・監査役にアンケート形式による自己評価を実施

### **2018年3月期**

第三者評価を実施 ⇒ 2018年5月 評価の概要と今後の対応を開示

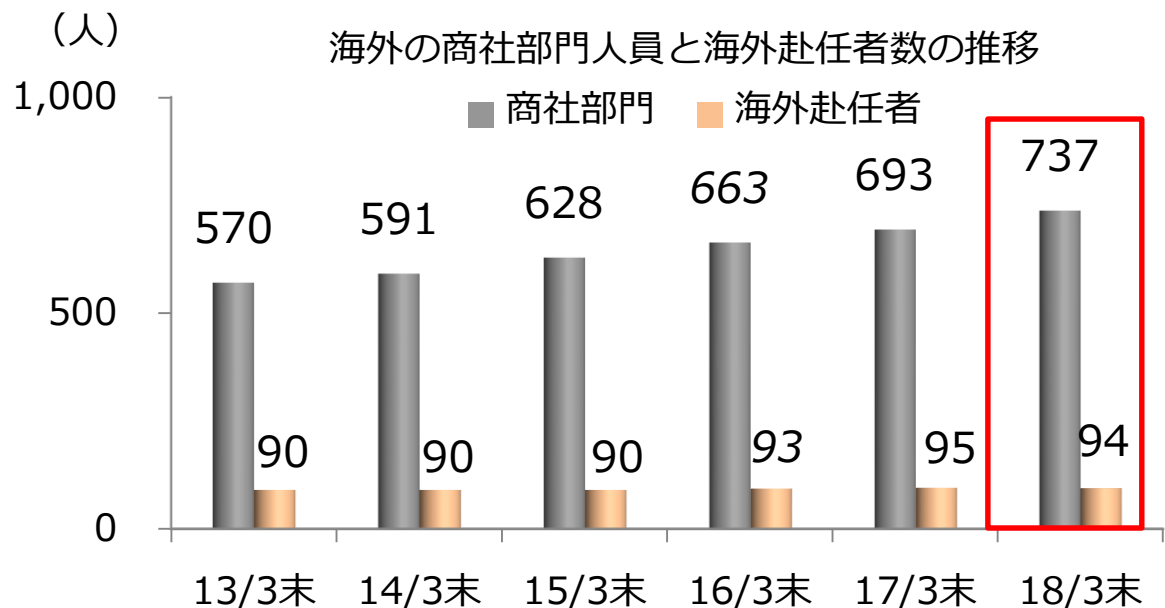
## 人員の充実と共に、質的な面での強化育成を加速

✓ 日本を含めたナショナルスタッフ同士の交流促進

✓ Global Staff Meetingの継続的な開催

2018年5月に東京で開催（ナショナルスタッフ 6名参加）

「目指す姿（Vision）」、「価値観（IK Values）」の共有を目指す

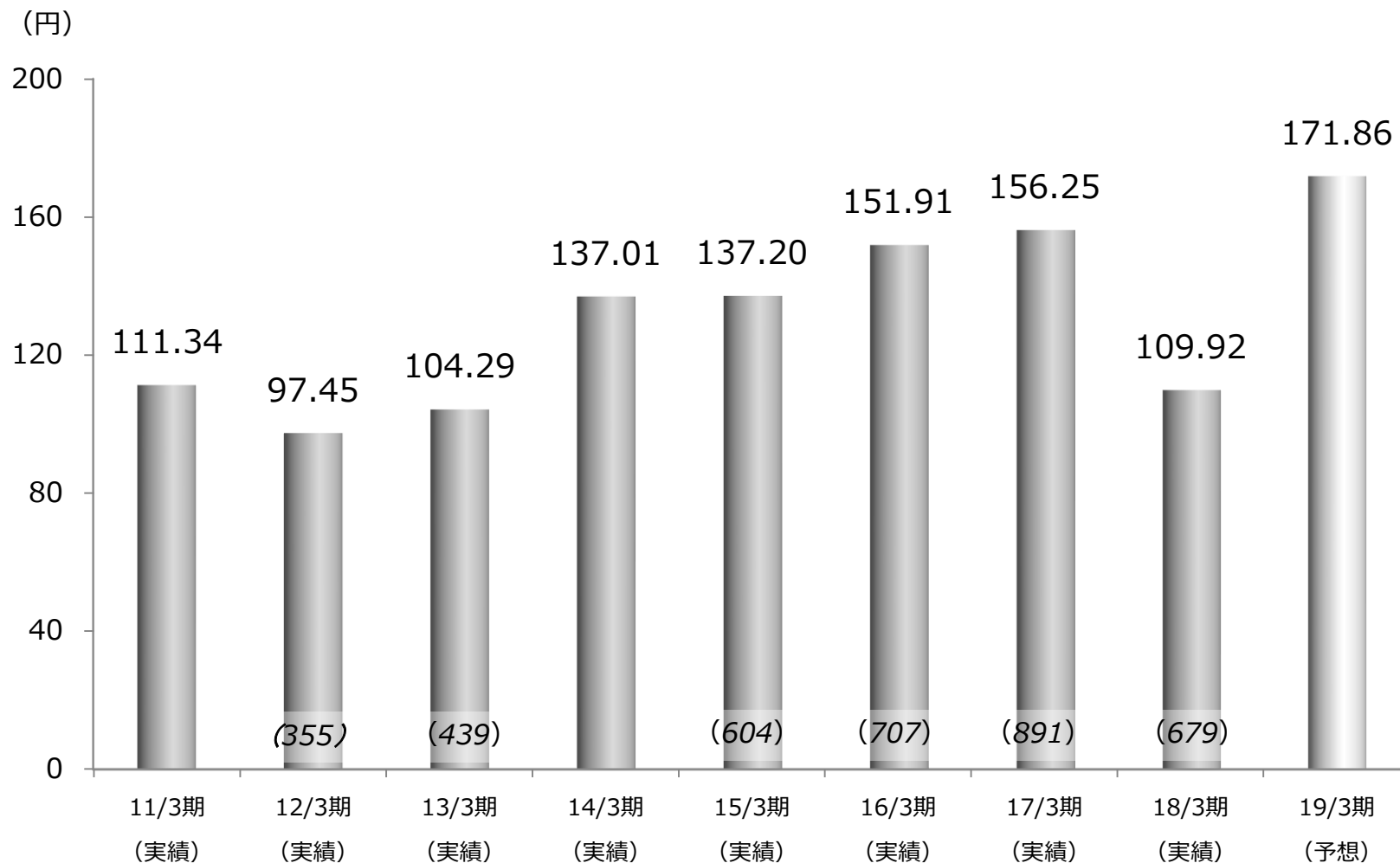


【稲畑広州の社員】

(注) 各海外赴任者数は、翌月の1日現在の人数

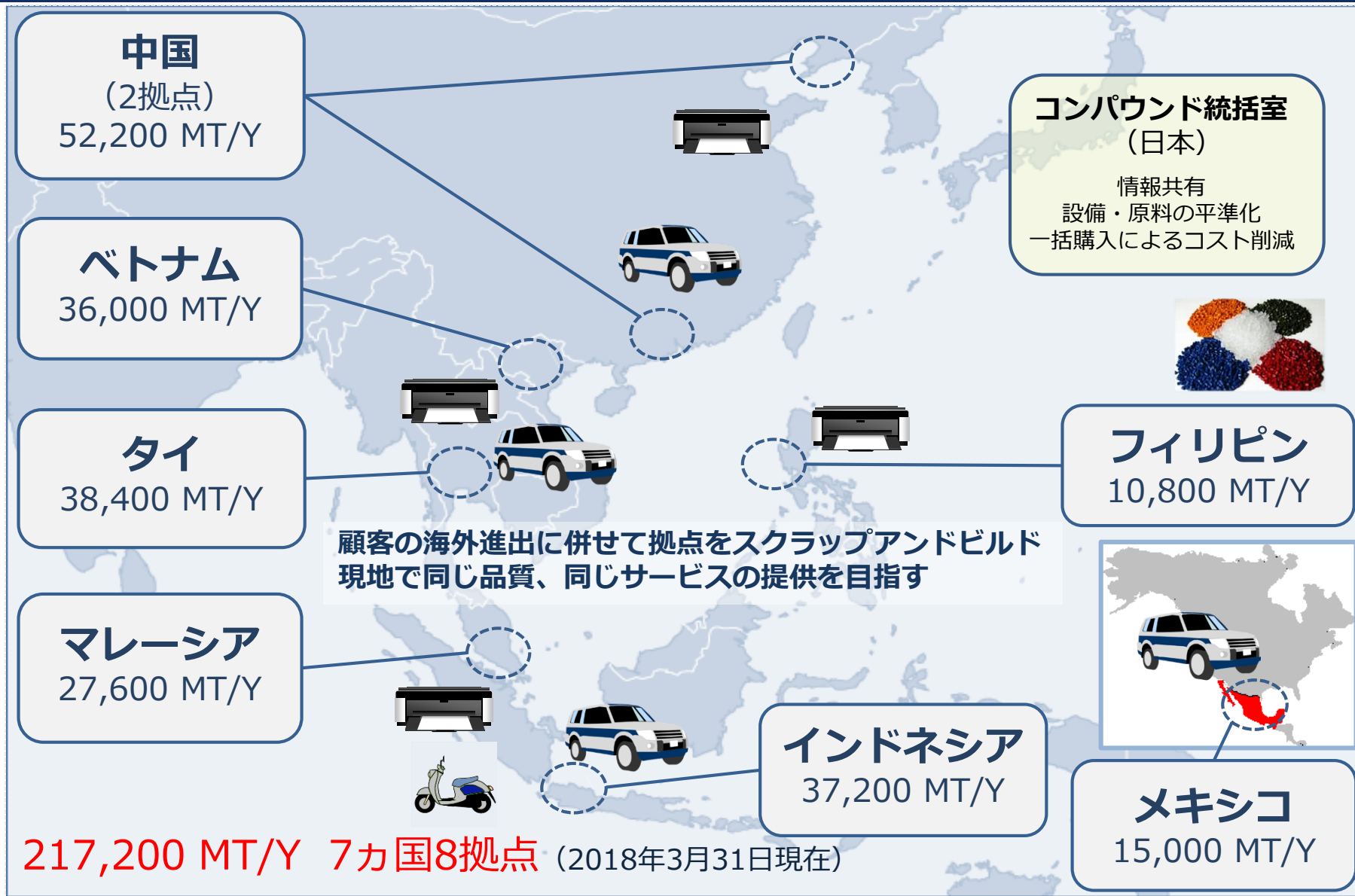





# 【参考】1株当たりの当期純利益



(注) 棒グラフ下部のカッコ ( ) 内は、期中に実施した自己株式取得額 (百万円)

# 【参考】樹脂コンパウンドの年間生産能力



- ドイツ子会社(IKEG)において、太陽電池モジュールの在庫の販売予定先（X社）による無断売却が発覚
- 
- 事実関係の確認と決算数値確定のため、2018年3月期第1四半期の決算報告を延期（決算発表日：2017年8月14日から9月13日へ）
- 
- 第三者を含む社内調査委員会を設置。同委員会において、事実関係の徹底解明と原因分析を行い、再発防止策の提言を含む調査報告書を当社に提出
- 
- 調査報告書を受けて、再発防止推進部会を設けて再発防止策を策定
  - 取締役会にて再発防止策を決議（東証適時開示：2017年9月28日）

グループ内で再発防止策を周知・徹底

## ◆ 今回の問題を招いた背景

- 欧州リージョンが他リージョンと比較して業績が伸び悩む中、ビジネスの拡大を急いだこと
- ドイツ子会社は、欧州の商社拠点として設立（2013年12月）してからまだ数年で社員教育や組織体制が十分でなかったこと
- 当社の海外ビジネスが急拡大する中で、全社的な海外グループ会社の管理体制の整備が一部追いついていなかったこと

再発防止策	
1.仕入・在庫管理に関する対策	1-1 実地棚卸、帳簿棚卸の強化
	1-2 大量仕入に関する決済基準の設定
2.業務管理に関する対策	2-1 海外子会社の業務ルールの周知・徹底
	2-2 仕入・在庫管理、与信管理、業務管理に関する教育研修の徹底
3.営業部門と管理部門の意思疎通を円滑化する対策	
4.グループ会社管理機能を強化するための対策	4-1 新たな情報システムの構築
	4-2 当社管理部門の牽制機能の強化

## ◆ 2018年3月期 第2四半期累計期間の連結決算に与えた影響

- 太陽電池モジュール在庫の差異不明分による売上原価増 12百万円
- 太陽電池関連の取引先（X社）に対する債権及び関連する債権に対する貸倒引当金を計上 約31億円
- 関連する投資有価証券の評価損を特別損失で計上 2.5億円

## 【参考】 会社概要

会社名	稲畑産業株式会社
創業	1890年10月1日
設立	1918年6月10日
資本金	93億6千4百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 稲畑 勝太郎
本社	大阪本社/大阪市中央区南船場一丁目 15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋本町二 丁目8番2号
従業員数	630名〔連結4,098名〕
発行可能 株式総数	200,000,000株
発行済株 式の総数	63,499,227株

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
上場市場	東証一部
証券コード	8098
単元株式数	100株
株主数	6,588名
大株主の状況 (持株比率上位3 株主と持株比率)	住友化学株式会社 22.6% 日本トラスティ・サービス信 託銀行株式会社(信託口) 5.0 % JP MORGAN CHASE BANK 380684 4.6%

(注) 当社保有の自己株式数(2,210,097株)については、  
持ち株比率の計算から除外しています。

(2018年3月31日現在)

## □ I R に関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 財務経営管理室 I R 企画部  
TEL 050-3684-4007 FAX 03-3639-6410  
E-mail inabata-ir@inabata.com

### ◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

### ◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。